



# さくら 2006 夏

発行  
社会福祉法人 東桜会  
第 12 号  
〒420-0962  
静岡市葵区東 527 番地の 1  
特別養護老人ホーム 麻機園  
TEL 054(247)8739  
FAX 054(247)8640

## 麻機園の“嘱託医”が変わりました。

長年、麻機園の嘱託医（定期的にホームを訪問して診療し、入所者が急に具合が悪くなった時などに往診する医師のこと）として勤めていただいた宮城島善和先生に変わり、5月より“北澤 透（きたざわ とおる）先生”に嘱託医をお願いすることになりました。

麻機園には、毎週木曜日の午後1時に来園され、入所者の健康管理等に努めていただきます。

先生は、静岡市田町2丁目で“きたざわ内科”を開業され、内科、消化器科を診療されています。



### 北澤先生からのご挨拶

はじめまして。5月から嘱託医をやらせて頂いている“北澤 透”と申します。葵区田町で内科を開業しています。前任の宮城島先生に比べて未熟ではありますが、誠意をもって診療に当たらせていただく所存です。今後ともよろしくお願い致します。

## 「夏祭り」へのお誘い

今年も“夏祭り”を行います。利用者の皆さんはご家族と一緒に参加できることを今から楽しみにしています。食べて、聴いて、見て、笑う。夜には手筒煙火<sup>はなび</sup>もあります。皆さまの中に、火薬の匂いはどこか懐かしく何故か胸が弾むという方はいらっしゃいませんか？

これからますます暑い日々が続くと思いますが、季節を感じる楽しいひと時を...と願い、職員一同準備を進めています。大勢の方のご来園を心よりお待ちしております。

麻機園 寮母 高井沙織

### 開催日 8月6日(日)

**昼の部** 午後2時30分～4時15分迄  
ケアハウス桜花  
麻機太鼓、ひも引きゲーム、  
シャボン玉、金魚すくい  
たこ焼き、かき氷、綿菓子など



**夜の部** 午後7時20分～8時00分頃  
麻機園 園庭  
手筒煙火“長尾川手筒煙火保存会”

## アサガオの種を蒔きました。

麻機園では、5月より新たに“園芸クラブ”の活動を始めました。園芸クラブの会員は、お花の好きな方5名です。アサガオの種を蒔き、交代で水やりをしたり、雑草を取ったり、観察日記を付けたりしています。毎日、少しずつの活動ですが、アサガオの成長を楽しみに園庭へ出掛けます。日々の活動を通して「楽しみ」や「生きがい」のひとつになればと思っています。

現在、入所者及び職員で活動していますが知識や経験が少ないため、私達と一緒に活動して下さるボランティアさんを募集しています。



# 自分らしく

麻機園デイサービスセンター【認知症対応型】 介護職員 山本 忍

麻機園で働き始め5年が経ちます。勤めるようになってから特養以外で働いたことがありませんでした。その私に突然、今年の始め特養からデイサービスへ異動の話がありました。デイサービスの仕事が勤まるのか？と不安な気持ちでした。しかし、「他部署で働くことは自分のためになるだろう、自分らしくやってみよう！」と初日を迎えました。

最初は仕事の進め方の違いに戸惑い、また利用者も私が新人と分かっているせいか、接するときの様子が他の職員と私では違い、信用されていないのだ...とショックでした。

それから私はいろいろ悩み、まず私のことを知ってもらえるよう積極的に利用者へ話しかけるよう心掛けました。そうするうちに、皆さんもだんだん私の話に興味を持ってもらえるようになったのです。今では仲間の一人として認めてもらえたように感じています。

これからもデイサービスを利用される皆さんに、楽しく一日を過ごしていただき、笑顔がたくさんみられるようにがんばります。



## 「あなた、靴を履かせるの上手ね」 麻機園 パート寮母 伊藤美衣子

父は右足膝下から切断、透析を受けるほど重症の糖尿病患者でした。私が付き添い病院に行くのですが、車からの乗り降りは職員の方をお願いしていました。私が手伝おうとしても「お前じゃ怖いから」と言うのです。「どうして怖いの？」「どこが違う？」といつも歯痒い思いをしていました。

父が亡くなり、私の中に何もできなかった悔しさと「どうして私ではダメだったのだろう？」という思いが残り、介護について考え、縁あって麻機園で働くことになりました。

私は初めて自分一人でAさんの移乗をしたときの事をよく思い出します。「怖い」と思われぬか心配でした。ドキドキしながら「落ち着いて」と自分自身に言い聞かせ、ベッドから車椅子への移乗を行いました。そっと顔を覗くとAさんはいつもと同じように笑顔で私を見てくださいました。無事に車椅子に座ることができ、靴を履いていただいているときです。「あなた、靴を履かせるの上手ね」と穏やかな声が頭の上から聞こえてきました。「私が？」涙が出てきて「ありがとうございます。」と一言いうのが精一杯でした。

この先の人生、大変なことがあるとしても、このときの事を思い出したらきっとがんばれる、私にとって忘れられない出来事になりました。利用者の皆さんからは“心強くなったり”“優しくなったり”する言葉をいつもいただいています。



既に私の祖父は亡くなりましたが、利用者のお世話をさせて頂くときに、顔を浮かべ感謝の気持ちで働いています。

それまでの私は利用者との関係を「麻機園でお世話をしているときだけの関係」と捉えがちでした。しかし、利用されている方にもそれぞれ時間の流れがあり、過去・現在・未来と続く生活の中で、今現在、私が関わっていることを改めて実感しました。

ある日、自宅で幼い頃のアルバムを眺めていると、どこかで見覚えのある顔が...！そこにはKさんの腕に抱かれて笑っている私の姿がありました。両親に話を聞いてみると、幼い頃Kさんが自宅近くに住んでいて、深い交流があったとのことでした。麻機園は私が育った街にあるので、小学校の恩師や近所の駄菓子屋のおばさん、昔お世話になった方々：たくさんのお接点があります。

働き始め何年か過ぎた頃、私が担当する居室にKさんという男性が入所されました。Kさんは寝たきりで脳梗塞の後遺症があり、上手に話をする事ができない方でしたが、発する言葉や仕草には特徴があり、また少し名前が変わっていたため、私の中で印象に残る一人になりました。

麻機園 寮母 杉山幸基

「時代の流れの中で」